

茅ヶ崎市，寒川町，藤沢市におけるタゲリー斉調査 (2008 年度)について

樋口公平¹⁾

はじめに

タゲリ *Vanellus vanellus* (Linnaeus, 1758) は、チドリ科の冬鳥で、神奈川県レッドデータ生物調査報告書(2006)では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。タゲリの好む環境は、平地の見晴らしのよい水田などで、特に湿田が好まれている。

餌は、水田の土の中のみみズや昆虫類などを主として、他にドジョウやトウキョウダルマガエルなどの記録もある。

都市化の影響による県内の水田の減少は著しく、茅ヶ崎市も例外ではない。平成元年から平成17年までの作付面積は113haから53haと47%に減少している((神奈川県環境農政部農業振興課作成資料、茅ヶ崎市2005年農林業センサスによる)。

県内のタゲリは、10年程前までは横浜市や三浦市に飛来していたが、水田の減少と共にすでに飛来が途絶えており、茅ヶ崎市、藤沢市、寒川町の湘南地域の越冬地は、東京以西においては東京に最も近い越冬地となってしまった。

調査地でのタゲリの渡来数は水田の減少や、都市化による開発などの影響を受け、急速な減少傾向であり、「茅ヶ崎版レッドデータリスト」(2006)では絶滅危惧種に位置づけられた。

減少し続けているタゲリの越冬状況を把握し、保護していくためのデータ収集を目的として、タゲリー斉調査会では2000年から毎年、茅ヶ崎市、寒川町、藤沢市で、タゲリの越冬個体数や移動ルート of 調査を続けてきたが、2008年度も引き続き調査を実施した。

以下に、その結果を報告する。

※「タゲリー斉調査会」の構成メンバー

茅ヶ崎野外自然史博物館，三翠会，日本野鳥の会 神奈川支部，神奈川県自然観察指導員連絡会，日本

大学生物資源科学部，寒川エコネット，地域の市民などの有志

1. 調査日時

2009年1月12日10:00~12:00

調査日は従来12月の中旬で統一していたが、今回は雨天により中止となったため、1月に順延した。タゲリは例年2月後半まで県内で越冬していることがわかっているため、調査日が遅れたことに対する影響はあまり無いと思われる。

2. 調査地点

合計16か所の調査地点を下記のように設置した。

・茅ヶ崎市(6か所)

芹沢新道橋付近，芹沢農地改良碑付近，下寺尾西方・一ツ橋，下寺尾北方・寺尾橋付近，西久保大町西側・北側，萩園島入

・寒川町(7か所)

岡田，一之宮西・八丁目，一之宮東，大曲四丁目，大曲三丁目，田端，小動旭橋周辺(調査本部)

・藤沢市(3か所)

打戻，大庭，宮原大昭橋南側

これらの定点は、茅ヶ崎市、藤沢市、寒川町で過去にタゲリの飛来の情報があった場所や、飛来の可能性のある見晴らしのよい水田地帯を選んでいる。

1) 統廃合した調査地点

茅ヶ崎市では4か所の地点を統廃合した。2002年度まで調査地点に設定していた、赤羽根五区は水田の大規模な農地改良工事，下寺尾駒寄川は宅地化により、いずれも越冬環境が壊滅したため、2003年度以降調査地点から外している。平太夫新田は、相模川の川岸や中洲を利用するタゲリの確認を目的としていたが、2000年に移動の調査結果があるのみで記録が途絶えているために、今回は調査地点から外した。

また、西久保北は、西久保西側に統合した。寒川町では一之宮八丁目を一之宮西の調査地点に統合した。

2)新たに追加した調査地点

寒川町北部から藤沢市北部に流れる目九尻川沿いの水田にタゲリがいる事前情報があったため、藤沢市宮原の大昭橋の南側、及び寒川町小動旭橋周辺の2か所を調査地点として加えた。そのうち大昭橋は過去に調査地点として加えたことがあるが、記録はされなかった。

3)調査本部について

従来調査本部は西久保西側に設置していたが、土手の上で見晴らしが良いこと、越冬群の中心的な利用地である小出川中流の一角であることが理由だった。今回は事前情報で当地周辺にタゲリがいない可能性が高く、いる可能性の高い目九尻川沿いの小動旭橋に変更した。

3. 調査方法

以下のとおり、従来と同様の方法を取った。

1)定刻一斉調査

10:00, 10:30, 11:00, 11:30, 12:00に、各調査地点で一斉にタゲリの個体数を数える。

2)移動ルート調査

各調査地点でタゲリの飛来、飛去、通過を確認した場合、その時刻、移動方向、羽数を随時本部に携帯電話で連絡し、本部はその移動先と思われる調査地点に連絡する。このことにより、タゲリの移動ルートを掴む。

各調査地点には、タゲリの識別能力の高いリーダーを含む1~3人を配置した。

観察には双眼鏡、望遠鏡を使用した。

4. 調査参加者

- 【芹沢新道橋】小野芳弘, 小野晃作
- 【芹沢農地改良碑】山川賀津人, 山川優
- 【下寺尾北方・寺尾橋】池田尚子, 熊沢さえ子
- 【下寺尾西方・一ツ橋】浜田幸雄,
- 【西久保大町西・北】小山裕太
- 【萩園島入】平田稔, 三浦愛, 川辺 洪
- 【岡田・寒川東中学付近】目黒啓子, 宮向井勝
- 【一之宮西・八丁目】滝田紘一, 斉藤光男, 山下一夫
- 【一之宮東】石井大輔, 梶山春江
- 【大曲四丁目】山田喬之, 鳥丸一夫
- 【大曲三丁目】鈴木國臣, 吉田光志
- 【田端】河村まき子, 佐藤守
- 【小動旭橋(調査本部)】樋口公平, 長井祐樹
- 【宮原大昭橋南側】平岩宏司, 竹内陽子
- 【打戻】岸一弘
- 【大庭】濱伸二郎, 浅野牧子

地点名の次に書かれている名前の方が各地点のリーダー役とした。

5. 調査結果(表1)

1)タゲリが確認された調査地点

以下の1か所でのみ確認された。

藤沢市：宮原大昭橋南側

2)調査エリアに渡来している個体数の推定

定刻一斉調査の結果は表1のとおりである。11時00分から12時00分まで確認され続けた7羽が今回の最大羽数となり、少なくとも7羽以上が渡来していることが確認された。

調査地点	調査時間				
	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00
藤沢市宮原・大昭橋南側	0	2	7	7	7
合計	0	2	7	7	7

表 1.時間別確認個体数(タゲリが確認された地点のみ)

3)移動ルート調査の結果

今年度の調査では、タゲリは調査時間中、地点間をまたぐ移動はまったくなかった。

6. 考察

1)地域別の状況について

今回確認された藤沢市宮原の目九尻川流域の水田地帯は、タゲリを見たという情報が過去に複数あった。そのため従来から不定期に調査地点としていたが、調査期間でタゲリが確認されたことは無かった。

一之宮、田端、大曲、萩園、西久保は、一帯となった水田エリアで、過去から中心的な越冬地となっていた。昨年の調査までは安定的にこの地点で確認されてたが、今期初めてこの一帯からの記録が途絶えてしまった。今期の調査は天候により延期となったが、延期せずに予定通り12月であれば2羽の越冬が確認されていた。

岡田、下寺尾両調査地点では2005年の調査では記録されたが、2006年以降今回も未確認だった。

芹沢の小出川上流域は、2001年度から毎年交互に確認、未確認を繰り返し2005年は確認できたが、2006年以降連続して未確認であった。水田の面積が下流域に比べて狭いことなどから、タゲリが定着しにくい可能性がある。

1か所の定点でしか確認できなかったのは、2006年から連続しており今年も同様であった。

引地川水系の大庭については渡りの時期の初期に通過個体が立寄る情報はあがるが、一斉調査では2002年度の記録を最後に今回も記録は無かった。

2)確認羽数の推移について(表2)

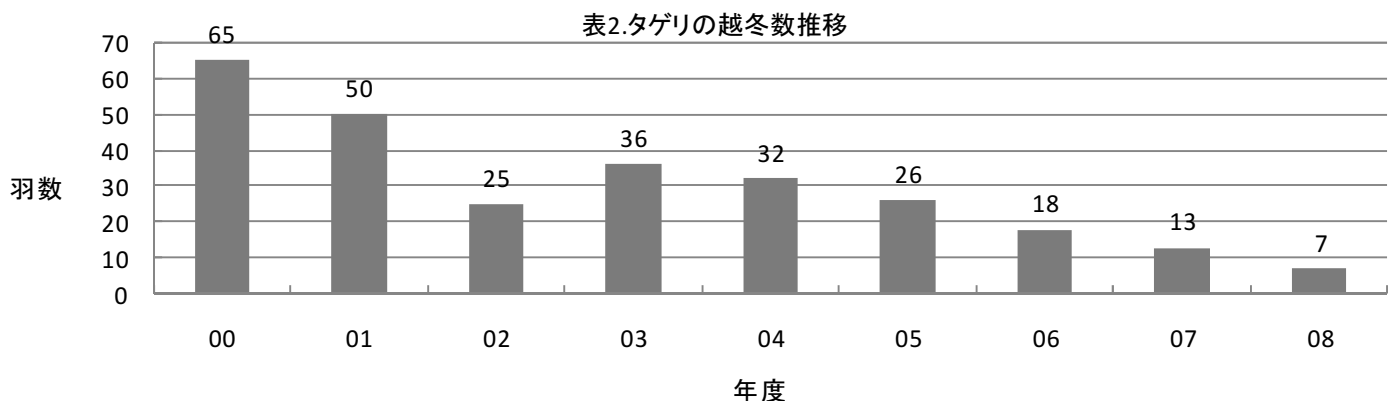
2000年度65羽以上、2001年度50羽以上、2002年度25羽以上、2003年度は36羽以上、2004年度は32羽以上、2005年度は26羽以上、2006年度は18羽以上、2007年度13羽以上、今年度7羽以上というように減少の一途をたどっている。

3)タゲリの減少と保護について

今回の調査では、3年続けて確認地点が1か所のみであった。また、今まで中心の越冬地であった茅ヶ崎市を含む小出川中流(一之宮、田端、大曲、萩園、西久保地区)での記録が初めて途絶え、ついに茅ヶ崎市からタゲリがいなくなってしまった。また確認数も過去最低の記録を更新し続けている結果となった。

上記の原因を推測してみたい。タゲリの繁殖地であるのシベリアや中国東北部では温暖化の影響で凍土が溶けてハクチョウ類が繁殖できる湿地は増えて、日本に飛来するハクチョウ類増加しているという発表もある。一方中国東北部では開発が進み湿地帯が埋め立てられたりもしている。タゲリは繁殖地では湿地帯を利用しているため、繁殖地の影響を良いほうか、悪いほうかわからないが受けている可能性はある。一方調査をした越冬地としての急速な環境変化が大きな要因となっている可能性が高い。

タゲリが好むのは、見晴らしのよい湿り気のある水田だが、調査地域のほとんどで水田が減少し、次々と休耕田や畑、宅地、道路などに変わっている。今回の確認地点周辺は、他の定点に比べて水田面積は



まだ広いが、減少傾向にあることに変わりはない。

中心的な越冬地である小出川中流の水田地帯では、今回記録が途絶えたが、当地の環境変化としては、とくに相模縦貫道の建設が進み、今年から高架がかかったこと、一之宮のタゲリが頻繁に利用している水田部分の直近の農道が拡張、舗装されたことによる乾田化が進んだことなどがある。大庭、赤羽根五箇、駒寄川流域のように、従来見られた越冬地でも一旦確認できなくなると復活することがない定点が多い。赤羽根五箇では水田そのものは残されているが、乾田化されてしまったことが大きく影響しているものと思われる。

水田を中心に利用しているタゲリは、ついに一桁になり、このままでは当地区から姿を消してしまうと予測できる。また水田はタゲリだけでなく多くの生き物を育む環境でもある。行政、市民が力をあわせ、生物の保護のため、より具体的、積極的な緊急対策を講じる必要がある。

参考文献

神奈川県レッドデータ生物調査団編, 1995. 鳥類.

神奈川県レッドデータ生物調査報告書, 140-156.

神奈川県立生命の星・地球博物館, 2006. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006, 鳥類. 233-264.

茅ヶ崎市, 2006. 茅ヶ崎市自然環境評価調査概要報告「自然環境評価マップで茅ヶ崎の自然を見てみよう」, 36-38.

樋口公平・岸一弘, 2002. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2000年度)について. 文化資料館調査研究報告, (10):29-31.

樋口公平・岸一弘, 2003. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2001年度)について. 文化資料館調査研究報告, (11):17-19.

樋口公平・岸一弘, 2004. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市, 横浜市戸塚区におけるタゲリ一斉調査(2002年度)について. 文化資料館調査研究報告, (12):25-27.

樋口公平・岸一弘, 2005. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2003年度)について. 文化資料館調査研究報告, (13):1-3.

樋口公平・岸一弘, 2006. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2004年度)について. 文化資料館調査研究報告, (14):1-3.

樋口公平・岸一弘, 2007. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2005年度)について. 文化資料館調査研究報告, (15):11-13.

樋口公平, 2008. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2006年度)について. 文化資料館調査研究報告, (17):1-3.

樋口公平, 2009. 茅ヶ崎市, 寒川町, 藤沢市におけるタゲリ一斉調査(2007年度)について. 文化資料館調査研究報告, (18):1-3.

- 1) タゲリ一斉調査会・三翠会・茅ヶ崎野外自然史博物館